



TITLE:

歐洲各國のナチ傾向

AUTHOR(S):

瀧川, 規一

CITATION:

瀧川, 規一. 歐洲各國のナチ傾向. 地球 1934, 22(2): 138-144

ISSUE DATE:

1934-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184322>

RIGHT:

歐洲各國のナチ傾向

瀧川 規 一

伊太利のファッショと獨乙のナチとは只程度の差があるのみで種類の差がない。同じく熱烈さを有してゐるがナチは觸れる手を焼灼靡爛せしめる白熱の火である。ファッショが最初勃發し伊國の全權をとつた時は世界の耳目を聳動せしめた。世界各國の片隅にはファッショ氣取りの政治家が雨後の筍子の如くに現はれ、ムソリニは亂れた國家の救世主の如くに思はれたが、

ムソリニ御自身はファッショは只伊太利の經濟狀態の必要に應じて生れたものであつて他國に宣傳すべきものでないと公言した。ヒットラはムソリニの如き哲學を有するや否やは、たとへヒットラの生立宣傳書の説く所を見ても其深さを知るに苦しむ今日の狀態であり、只度々の強

壓政策の實行によつて世人を驚倒せしめてゐるに過ぎない。然しファッショを眞似た小政治家群が生じた如く歐洲各國に於てヒットラを眞似且つ其色彩を發揮してゐる連中がある。物眞似するは猿猴に限らない。今歐洲各國に於けるファッショ及びナチの傾向を國別に觀察してみ

る。

奥國　獨乙國に隣接する各國には一千四百萬人の獨乙人が在住してゐる。其のうちにも奥國に住む獨乙人はヒットラの主義行動に最多く關心をもつてゐる。奥國の田舎の都會の行政權は殆どナチスによつて掌握された結果として一九三三年十月三日には首相エンゲルベルト・ドルフス (Engelbert Dollfuss) を殺害せんと首都納

維のナチスは計畫した。然しナチスの計畫は失敗に歸しナチスは爲めに政治的法律的特權を失つた。獨逸の國境は嚴重なる監視を設けられナチスが獨逸より潜入するを遮斷せんと欲してゐる。蓋しナチスが國家の全權を掌握する時は獨逸は獨逸に併合される恐があるからである。抑も首相ドルフスは基督教社會黨を率ゐる首領であり、從來ナチスに對して妥協的態度をとつてゐた人である。獨逸には國防隊 (Heimwehren) があつて恰も伊國のファッショの隊の如き性質をもつて居り、猶太人に對して反對を表明してゐなかつたが、今日では昔日程の權勢をもつてゐないらしい。

匈牙利國 政府は色襪衣を着用することを禁止してゐるが、匈牙利のナチスは綠色の襪衣を着用してゐる。ナチス首領の一人にはアルブレヒト (Albrecht) と云ふ大公爵が居る。この人はハプスブルグ家の支配階級の一人であつて嘗ては匈牙利の王位に擬せられたこともある。一

九三三年十一月の末にブダペスト大學及びデブレチン大學の學生等は同學の猶太人學生を侮辱しその分離を主張して騷擾を起したが、大學當局は警官の力によつて漸く鎮靜した。世界大戰後間もなく國內ファシモは蜂起した。一九三二年首相となつたジュリウス・ゲムベス (Julius Gömbös) 將軍は一時ヒトラの運動に大賛成者となつたことがある。獨逸には覺醒匈牙利人 (英譯 Awakening Hungarians) と稱するテロの團體があり社會主義の勞働組合を放逐し猶太人を迫害した。今日では凡て平穩に歸し、ヒトラ主義に對しては免疫狀態である。

チエコスロヴァキア 一時ナチスの本據たらんとする様子に見えたが、政府は強硬に干渉しナチ黨の組織を一掃した。國內には三百五十萬人の獨逸人が居り其大部分は密集して獨逸國境に沿うて住居してゐるが、ファッショに反對する社會黨及び農民黨もありまたヒトラ派もその中に存在してゐる。ヒトラ派は種々の名稱の下に

強き團體を組織してゐるが、そのうち最堅固な團體は國民運動 (Volkspport) 派であり表面の意は運動競技俱樂部の意である。この派は政府がヒトラ主義に反對の態度をとることを感知するや目的をカムフラージして政府の攻撃を避けたが、政府は壓迫を緩めずナチスの首領を捕へ運動派を解散し獨乙語新聞の發行を禁じた。

ルマニア 一九一三年十二月二十九日の夕方首相にして自由黨首領であつたイオン・ヂ・ヅカ (Ion G. Duca) をシナイア (Sinaia) にて暗殺した。刺客はラヅ・コンスタンチネスク (Rudu Constantinescu) と云ふ男であつた。この男はルマニアに於るナチス組織をなした組織者の一人であり、且つ猶太人排斥の鐵甲隊 (Iron Guard) の組織者であつた。彼が刑の執行される前に裁判所に於て告白した處によると、當時ルマニアに於て八十萬人の猶太人が居り首相は猶太人の身方をしてたから暗殺したのだと云つた。暗殺の翌日に一萬四千人の鐵甲隊が捕縛された。彼

は下手人ではあつたが暗殺の張本人ではなかつた。張本人はコルネリウス・コードロス (Cornelius Codreanu) と云ふ男であつたが遂に縛に就かなかつた。この男は婦人に變裝して獨乙に逃げ去つたと云はれてゐる。鐵甲隊の本部に於て暗殺する可きブラック・リストが發見され、その名表には元老政治家の外相ニコラス・チツレスク (Nicolas Titulescu) 及び他の五大臣、並にカロール (Carol) 王の親任を得て居る秘書官ブイウ・ヅミトレスク (Puiu Dumitrescu) の名が列擧されてゐた。暗殺事件當時は全國的に戒嚴令を布かれた程の騒であつた。前首相アレキザンデル・ヴァイダーヅ・ヴォード (Alexander Vaida-Voevod) は鐵甲隊を重大視せずそのなすがままに委せてゐたので、鐵甲隊は基金及び武器を自給し各地に脅迫暴威をふるふに至つた。然るにヅカ首相が就任六週間に於て鐵甲隊の解散を命じたのでその初めに暗殺されたのである。もと奥國及び匈牙利に屬してゐた地方に於ける大學の學生間

にはヒトラの崇拜者があつて、ナチス側の調査によればルマニアには百萬人の獨逸人が居り、ヒトラの統治下に加はらんことを欲してゐると云ふ。ルマニアの東北の端に位するトランシルヴァニア (Transylvania) 及びブコヴィナ (Bukovina) の地方に於てナチ運動が最旺盛を極め、彼等は褐色の襪衣を着け、ヒトラ敬禮法を行ひ、ナチ歌を高唱し、獨乙の宣傳映畫を見て悦び、猶太人を呪つてゐる。

瑞西 瑞西にはナチ團體が六つ以上もある。チュリッヒ (Zurich) に於て選舉當時、市中に大きなポスタが貼られ、それには一人の肥満した猶太人と獐猛な顔をした人間とを描き前者は私腹を肥やす資本家、後者を共產主義者の象徴としてゐるのがあつた。彼等は祖國國境線 (Vaterländische Front) を標語として高壓的な宣傳振りを發揮して努力してゐるが、彼等及び瑞西フアシヨの高唱する所謂 Fronten なるものはチュリッヒに於ては意義をなさず、デエネツにては

社會主義者が豫想外に優勢を占めてゐる。瑞西にてはナチスを組織することの困難がある。この困難の原因は國民性の複雑なることが其の一であり、瑞西の如く三民族集合の場合には何れの民族を嫌惡的となす可きかは甚だ困難な問題である。第二の原因は敵愾心を作るに適當なる機會がないことである。或る者は瑞西と云ふ名稱を棄てて各州即カントンを基礎にして國民性觀念を養成し聯邦 (Confederates) の名稱を採用して難點を避けんと欲した。大戰當時一時獨乙の陸軍首腦部には佛蘭西へ進撃する道を瑞西に藉らんとする計畫がありとの噂が傳はり瑞西人を全國的に驚かせ、其後同様の噂が度々傳へられ、新聞の憤激を招き、ナチスの國境線派は内通者として全般の不評を買ひ、社會黨さへも軍備擴張を主張するに至つた。これ瑞西に於て全國的にナチ主義を宣傳することの困難なる第二の原因である。

白耳義 白耳義はフレミッシュと稱し、フレ

ミッシュ語を話す民族と、ワローンズと稱する民族とより成り、フレミッシュに屬するナチスは獨乙方言を話し、同胞人である佛語を話すワローンズに反對してゐる。ナチスはデナゾス(dinazos)と自稱し綠色の襯衣を着け、ゲント(Ghent)市には「緑の家」と稱する高宏なる建物を有しそれを本部としてゐる。これ獨乙のヒトラ出身地ミュニヒ(Münich)に於ける「褐色の家」を眞似たものであり、彼等は社會黨、共產黨及び猶太人に反對し、佛語を話す者に反對し獨乙方言を以て統一し自治を企圖してゐる。

和蘭 和蘭に於ては政府當局又は國民が組織する如何なる團體をも侮辱する者は二ケ年までの懲役に處する法案を提出した程に和蘭のナチスは活躍してゐる。然し政府は猶太人を保護する方針をとつてゐる。彼等は黒赤の旗を黨旗とし黨の関の聲は Hou-zeel と云ふのである。その意味は海を監視せよ! との意である。

バルチック沿海三國

エストニア・ラトヴィ

ア・リスアニアのバルチック海沿岸の三國ではバルチック秘密結社(Baltic Fraternity)と稱する團體があつて、獨乙の以前の士官によつて指導されてゐる。三國のうちラトヴィア政府は秘密結社の組織者である二人の獨乙人を國外に放逐した。ラトヴィアのナチスは青鷲(Blue Eagle)と自稱して居り、一般投票によつて猶太人より選舉權及び土地所有權を奪ひ、猶太人に通商貿易・銀行・産業に従事することを禁じ、猶太人と非猶太人との結婚を禁止せんと提案した。新聞「フエルキッシェ・ベオブアハテル」(Völkische Beobachter)の主筆をなし、「褐色の家」の外事課長をせるアルフレド・ローゼンベルグ(Alfred Rosenberg)は露國民であつてバルチック地方に生れた人であり、自然ナチスに大關心を有してゐる。

ダンチット(Danzig) 自由市

ダンチットはヒ

トラ崇拜者によつて統治されて居るが、未だナチス特有の收容所がなくまた社會黨の暴行もな

い。國際聯盟委員によつて總監されてゐる。

瑞典 瑞典に於てはナチスは數よりも聲が高し。二三の新聞はナチスの徽章であるスワстика (Swastika) を印刷して居り、ナチス員の大半は昔の陸軍士官であり、政府の平和的政策に不満を抱く連中である。其勢力は瑞典の最南部に優勢であつて、首領はフルガールド (Furugard) と云ふ男である。若し瑞典のナチスが首府ストックホルム (Stockholm) の政權を掌握するに成功し瑞典の北部をプロイセンに譲渡する曉にはプロイセンの内相ヘルマン・ゲリング (Hermann Göring) は莫大なる補助金をフルガールドに提供すると云つた。フルガールドはプロイセン首相の申込を拒絶し、嫌疑を避ける爲めに兩人の會談を公表するに決した。瑞典のナチスには二派があり、フルガールドはその一を統帥し、ゾチアルデモクラテン (Socialdemokraten) は社會黨政府の機關紙である。一九三三年十月プロイセン内相ゲリングが瑞典に往訪した時にはス

トクホルムの「フアシスト進軍」の下準備なりとの噂さへ立つた。

諾威 諾威に於いてはフアシストはナシヨナル・ユニオニスム (National Unionists) と稱し首領はヴィイドクス・クイスリング (Vidkus Quisling) であり生粹のノース人であり以前に國防相を勤めてゐた人である。然るに一九三三年十月の議會選舉にはナチスは議席を得るに至らなかつた。**丁抹** もと獨乙領で、北シユレスウィヒ (Schleswig) として知られてゐる地方は世界大戰後一般投票の結果丁抹に附屬することになつた。この地方に於てナチスは最活躍してゐる。ナチスの首領はバストル・シュニット (Pastor Schmidt) と云ふ男である。この人は自己抱懷の政治的信條に科學的基礎を與へたと云はれ、フォルクシング (Folkething) 黨社會黨の代表である。彼の受持區域に於けるナチスの組織は整然たるものがありと云はれ、遂にはこの地方を獨乙に受戻す運動をヒトラが起すに至るやも

知れぬとさへ掛念されてゐる。政府の首腦はセオドール・スタウニング (Theodore Stauning) と云ひ社會黨に屬し、青年が自發的に國境監視隊を組織することを獎勵し、丁抹陸軍廢止案を下院通過後に撤回せしめ、政府よりは可成多數の爆彈機を註文した。獨乙のナチス側にてはアルプス山脈よりウプサラ (Uppsala) に至る北歐諸國即ち瑞典、諾威、丁抹等のスカヂネヴィア諸國を含めて一種の聯合 (Confederation) を作らんとする計畫があると云はれてゐる。これによつてヒトラ主義が北方進出をなしたことが事實である。

芬蘭 國民は非北歐系のフィンランド人の大多數と北歐系瑞典人の少數より成り、ナチスは少數黨の瑞典人排斥の運動をなし居るも、左黨優勢なるが爲めに未だ公然の運動とはならぬ。

佛蘭西 佛蘭西にナチスの運動は一寸考へられぬ様であるが、ナチ宣傳はアルサス・ローン地方から侵入し、國境州には「佛人よ自覺せよ」

(Français, Révelles-vous!) と云ふ宣傳トラヤへ見る。彼等は主として猶太商人排斥を主張してゐる。

或團體に至つては個人の運命は國家の運命に従屬すべきものなりと主張してゐる。

英國 英京倫敦オリンピア (Olympia) に於て一九三四年六月七日フアッショの大會があり流血の慘を見るに至つたが、未だ勢力微弱である。

新著紹介

○地理學年報 第二卷 福井英一郎 今村學郎 小牧實繁

松井武敏 織田武雄 小野鐵二 大塚彌之助 佐々保雄

下村彦一 綿貫明彦 吉村信吉編 東京目黒書店發行

六月 定價二圓八〇錢 菊版三五八頁 寫眞版十葉

昨年創刊されて江湖の歡迎を受けた地理學年報は其の二卷を悉なく發刊した。第一部研究として小牧氏の薩摩國吹上濱砂丘に關する浩瀚な研究の基となるべき觀察事項の報告が巻頭を飾つて居る。本年報の特色たる展望は第二部を成し地形學、湖沼學、交通地理學、地圖類、地理學史、氣候學、地理學性質論、地理學方法論、水河問題の諸項に分れて各に關する